

【川路保育園 秋の交通安全教室】 開催

川路保育園では、春と秋に「交通安全教室」を開催しています。
今回、秋の交通安全教室に指導者として参加したので、その様子を報告します。

当日は、『正しい歩行、横断の仕方や交通ルールを知り、守ろう』との目的で川路自治振興センターまで歩いて指導を行うように計画されていましたが、あいにくの雨の為にリズム室で行いました。

【と き】 令和6年10月23日（水）

【場 所】 川路保育園

【参加者】 川路まちづくり委員会会長：中島良彦代理 小林好雄
交通安全指導員：田中茂伸さん
安全推進委員会委員長：林晴彦さん
飯伊交通安全協会川路支部長、天竜峡駐在：小林厚司さん
自治振興センター：代田智之さん
保育園園児：39名、保育士（職員）：7名



【ようす】

・始めに自己紹介をすると、園児からはどこかで見た顔？の後に、元気な声で「こんにちは！」と挨拶です。



・小林厚司駐在さんは、分かりやすく、丁寧にお話をしてくれました。お話は、クイズのようで、園児はすぐに反応をします。園児が競って回答をしているのが印象的でした。

・雨に備えて、あらかじめ準備をされていたのでしょうか。先生方が園児になったり、自動車になったりして交通ルールの勉強をしました。



・園児？に扮した先生が交通ルールを守らない様子を見て、小林厚司駐在さんは『ピー』っと

笛を吹いて、ストップ！ストップ！なぜいけない？なぜ危ない？と園児に説明をされました。



・参加者も園児と一緒に参加しました。私も、車になって参加です。信号機を



みて赤で停止。横断歩道で、園児を見かけたら、止まって「はい、横断、どうぞ！」できました！

園児は、頭を下げて、「ありがとう！」元気にお礼を言えました。

【令和6年度 地域づくり研修会】に参加しました

【と き】 令和6年10月30日（水）

【会 場】 松尾公民館

【出席者】 地域協議会会長：橋本良彦さん

まちづくり委員会会長：中島良彦さん 副会長：小木曾みどりさん 小林好雄
自治振興センター所長：増田寿匡さん （飯田市 20 地区が出席しました）

いいだ未来デザイン 2028
2017 ▶ 2028
（平成 29～40 年度）
飯田市ウェブサイトより



【内 容】

講師：所長 藤山 浩 氏 一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

田園回帰1%戦略に学ぶ 『20地区田舎へ還ろう戦略』

地域ごとに特性を生かした取り組みの実践から交流人口・関係人口創出へ

- ◆H29 年策定 飯田市総合計画「いいだ未来デザイン2028」20地区田舎へ還ろう戦略の基となった田園回帰1%戦略とは
- ◆田園回帰によって都市と地方のバランスを回復させる
- ◆そこに生きる人々の記憶が紡がれる「地元」を取り戻していく⇒地元=故郷
- ◆住んでみたい、住み続けたい地域とは何か⇒魅力は、川路の宝
- ◆20地区基本構想・基本計画の推進が、地域の活力を生み、人を呼び込む

◆ポイント

◆現在の飯田市の人口：98,164人（2020年人口ピラミッド）⇒59,985人（2065年予想）に減少してしまうので、対策が必要です。⇒①出生率：1.72（現状）→1.80 ②流出率：男26%、女23%（10代後半から20代前半）は現状で設定 ③定住増加目標：現在人口の0.5%（200人に一人）これらの対策を実現できれば、飯田市の人口は9万人台で安定するとのこと。

これら対策の数値を実感できない私です！具体例（若者が働ける企業の誘致等）がほしいです。



◆広島県三次市河内地区の定住実現の取り組み例（上手くいっている例）下記実施

- 1) 空き家活用に関する取組
- 2) 集落支援員だよりの作成
- 3) Facebook・Instagramの記事作成
- 4) 他地区集落支援員との協力連携 等

太字：川路でも実施しています。効果はこれからに期待です。
集落支援員：地方自治体の委嘱により設置される。市町村職員とも連携し、集落への「目配り」として、集落の巡回、状況把握等を行う。
※総務省地域力創造グループ過疎対策室より

◆地域の経済循環強化へ～毎年1%の所得を取り戻す～ 田園回帰1%戦略

⇒令和6年度議会報告会 第3分科会のテーマ（地域内経済の循環）ですね。

毎年、外から買う量を100から99に減らし、1ほど、地域内で原材料からつくり始める地産地消ですね。イメージはわかりますね。具体例で考えると見えてくるかも？

◆地域ぐるみの「連結決算」と「コンマXの社会技術」

⇒高齢者（70～80代）の営農価値を計算し直す

高齢者が元気で働いて野菜を売り上げる + 元気に農業するので介護費用、医療費を浮かせていることになる。

◆疎開保険で関係人口&「パートナーエリア」形成

南海トラフ地震等の災害時、広域的な災害連携の必要性。

⇒災害を切り口とした地域間交流、物流、商流による地域おこしを行う。

自分事としては、健康寿命です！

